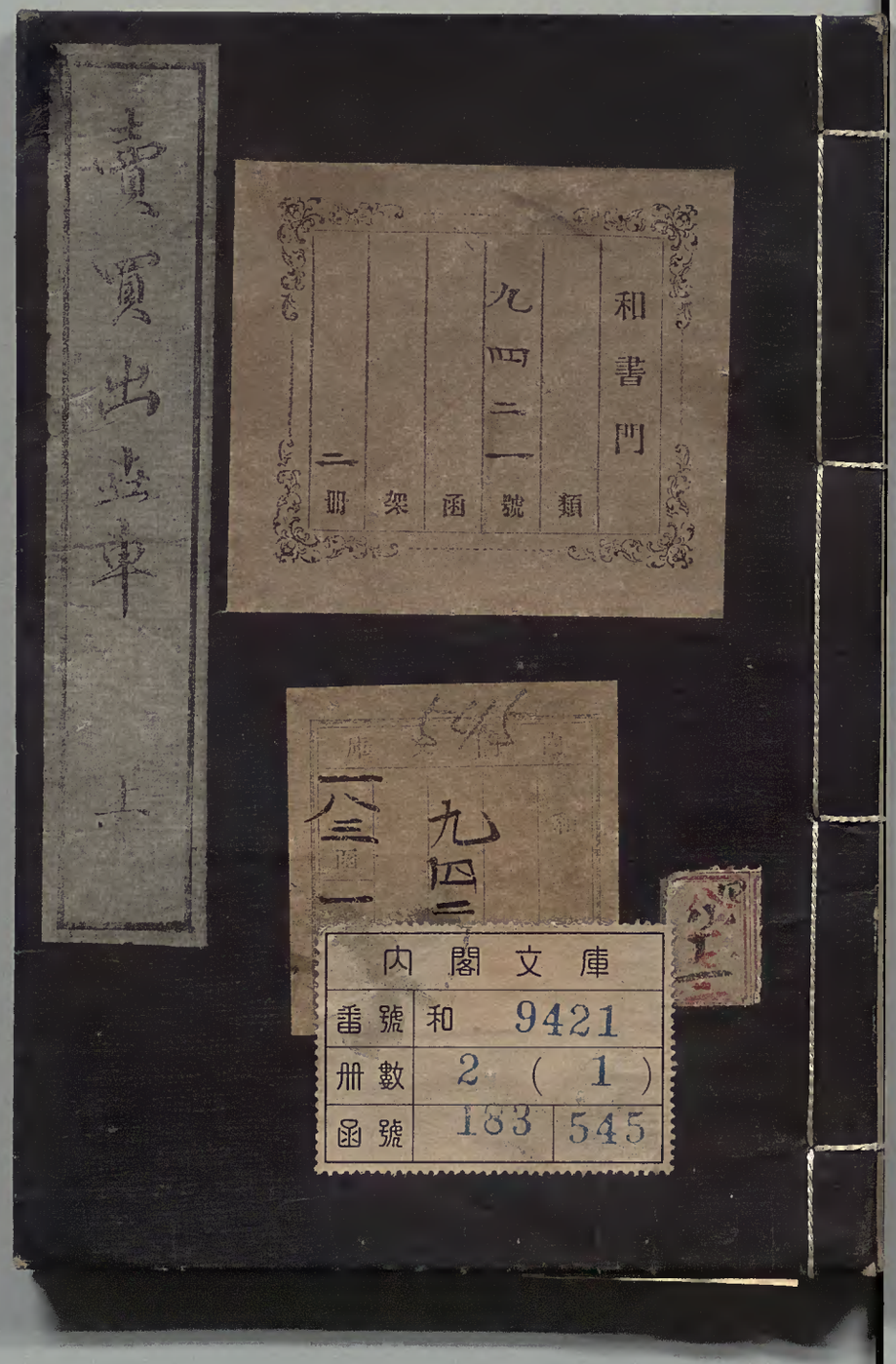


糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

羅糴必用

賣買出世車

二冊

浪華

中村三史堂藏

序

高き賤き能とあらば実用なるべし

ばかりを利益とするとは

なり古人盛衰学問堂

道を実用不実用あらざるべし

実を天下に示すべきなり

と治の五ふ人は上手にて所人分
孫の高ひの貧し紬いはるものの
事ども天はあづりあるに
ゆあらば藝能をおろふ人のおとく
にあるゆゑをまぢなるぬとふ
とも有べき世事其異義を

あらをせりよく諸て生理を窺
めば高人ゆ利益あるとなるべ
年ひ屋あるを世車と名
づるなり

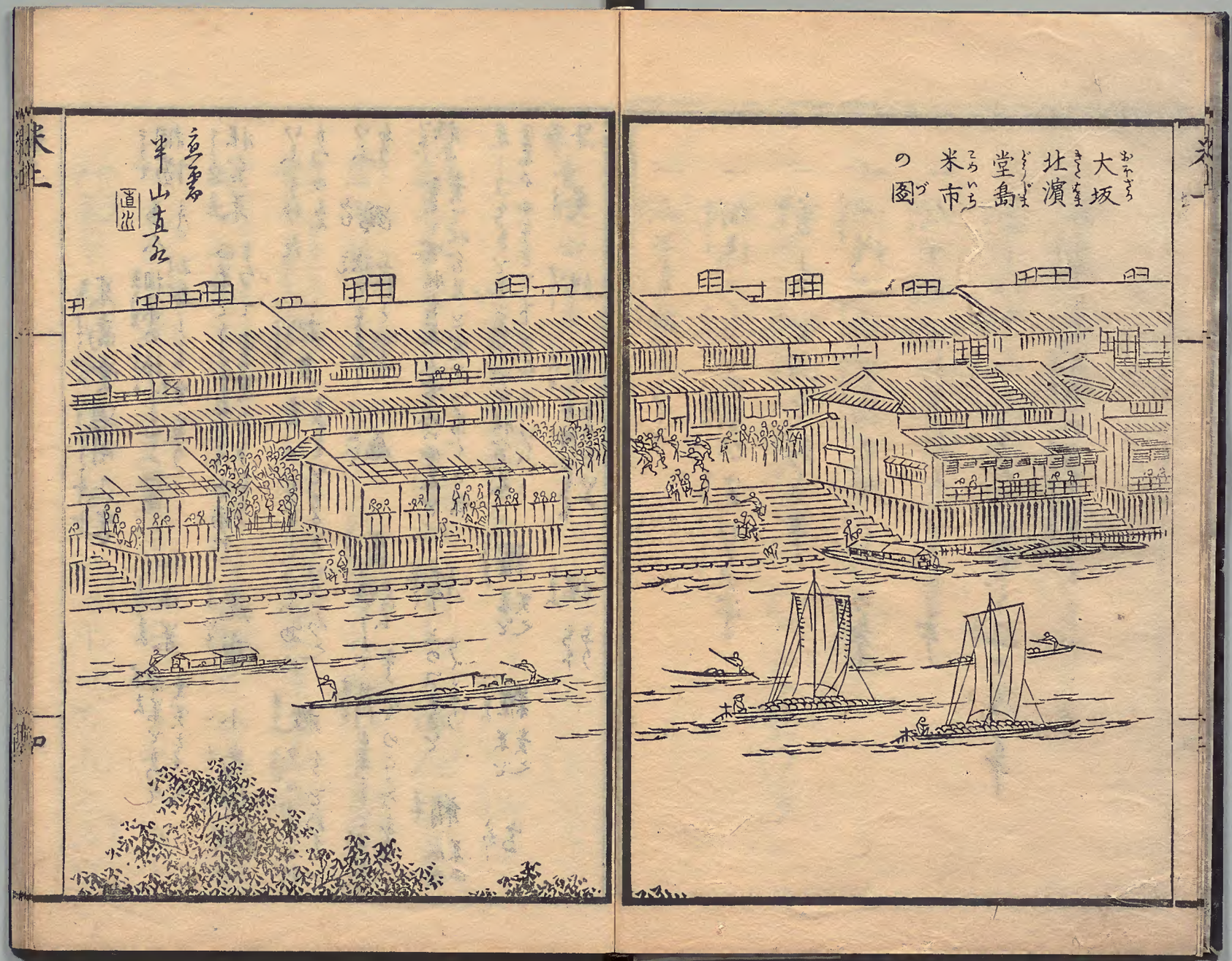
寛享五年三月吉日

東白序

目録

一 氏出の中末の年
一 相場あひの利徳の年
一 立身出世の年
一 運よくき人も運つよくある年
一 天の時地の利を人の和とある
一 天の冥加の年
一 辻占の年

一 人ハ貧福あるる
一 相場のうらとおもひ定むる年
一 養ひて吉凶を知る年
一 一代の中貧福さ成ぐの年
一 人の身上ふうきまづしみる年
一 運よくき人も仕とめてあせど福を得る年
一 無義にて相場のうらとまづらふひの年



国立公文書館
National Archives of Japan

米商賣通用正字

相場 商人 相場の坊ゝ云ふ名也 正米 投米とうして麦買まる之

帳合米 西米とうしぎれども市場にて賣買まる者 虎市 小高持買と持と

いふ うけた 把爻 賣と買きとをとるといふ名 救 其日ゝの利分とわるとの

ちつの義 いふ 踏 投とまると ふむといふ 履 歯 投として持ちあるとて

とるゝ のこらるあり

繋 米と買帳合米と賣みハ米と 賣て帳合米と買とつなぐと云 俳 上のつぶきと くあり 鞘 帳合米也

米ようりうきと上ざやとよび帳合米 米ゝ ゆききと下ざやといふ 糴 米と買之 糶 米と賣之 宮

下 賣 綜 米 市場のうきといふ 揺 うゝとあり

米穀賣買出安車上之

此書の出来れ年

一 名ふ名ふ名ふ名の淵ふひとりの福人ゆり其名をはじめうりていろ初めの時より友都人

世ふまゝしてそろばんの道ふ内とく性年ふ

及て小船を出して和とつの商とゝいぐて去

ろどもの天運いきぐりしみやさのゝ

利益とうるとふくもでふ四十のさろふ及び

てはじめておもひよりけるを人の福福い天
命ありと又ども其人力の用ひうるふより
て富貴多端おのづからそなはるあらんべき
本の花の喜きくい天あり時あり志うをども
うれと天命ふ用ひてひらげの座せ地ふうゆ
きぞとをはをはても喜の花もさうぞ私のアの
みもこのらぞ名られと日あるうの上田ふう
忘うをふ土かひ是ふ肥もれぞ天の時いうり

て親実をふうり繁業をるものい皆人力のい
うを活ありきれぞ人い其家業ふよりて貧福
のうるべきをありと仏づき初て仏法の業れ
協ふかう王朝合業を喜実しりるふあるひい
利をうるをもあり朱い換とをるおをもあり
て定まるる活計もおうりしう殺年を経て古
十のあ後ふいうり昭て考へ見へしるみて此
富ふ妙を切世ふ沙法をる程の大金張をふ

けて八十餘ふ有どちかく程存命ゆて世と嬉
るふゆぞりて恩拾の身とあきり其かれりう
けの子孫より〳〵子孫のみふかゝる家と
開ふふ深く乃程あるあとり事も家業を子
にはゝ〳〵今い安楽の身ありつきゝのよて
ちぐさゝふ其老人の金云と出あつめて此二
世とあし家子孫ふ傳へ世せく又世の人
のさめふもと名ふゆへ有ぞありさる人事

と難じて云人の貧福い天命ゆて利根才覚の
およぶとふあゝぞかの老人いゝふ利根だて
せゝふゝとも其運きたゝぞいうんで富貴
成ぢらきん為まゝ前世の果報めでゝ今
無業の身となりて其ゝれり自身と出あ
つ免たる出何とて人の世をのたもけとあ
るべきや無益のとゝありと笑ふ事云いやゝ
さふとあらばかの黄石公とやらんが澤の流

意ふ伝へ一巻の出今い七書の中ふへて学
問もる人どふ皆こるとあり此一巻の出今の
人いこても其利益あれと兵書の結ふとあら
ぞ見る人の箋用のあきなり張良も此一巻ふ
くんべ軍法の奥儀ときいむふともあく漢高
祖の帝師とけふ〻とあるいば是此一巻
此ありがたき仏あらだやかふをげたき一
巻もいゆの人をけの〻伝ドて用ひぞ〻ゆく

取てよむ人も其利益あきいあきよむ人の用
ひうさ此わしきゆ名ちなどや今家出あつむ
る和も名ちうり是とよくよみ組考ゆきべさ
ちまた福利とけるの妙典あり我こきを証し
て是高出世車と名づく事げ云とおろと伝ド
て高のけふ工夫といきべ生利を拾んおとう
たぐひあり事げいやしきと罪してあきと伝
ぜざるいその人の罪あり遅々天ふかりとい

へとも力を用ゆる事ハ人ふありよく考て知
ふべし

和場高の利徳の事

一大坂ハ昔ハ神武天皇東征の時浪速の郡と名
ぶ事和ひし西三十三ケ國の大津也かるゆ
えに仁徳天皇おゝみやこをなてゝ難波高
きやの御製作り豊臣大閤氏名城を造営の
りてより今の御代まてこの三ケ津と号し
京江戸大坂を日本三ケの大都会ともされば
あゆ猪民多く集りて西國小国の運送引き
ら出船昌日くみおとりかるゆゑ諸西
奏のお場おかくを大坂を以て根本とし人の
よく出るを本とバおゝよそくしく出るさ
法中ふも某相場ふ拵宮高といふを河口西某
とりくされどもそのありひへとりつておを
と奏入西某を入亟義をくてもをのひへふ

ゝてはをを買迚二十俵より根ざし二百俵ゟ
かぶぐちて乃至ゟ石万石百〻石ゝても賣買
もちゐ保ありて毎日数百の人命とおせり其
お傷の多下と強ありひへ〻〻ゞ万民の金と
好んも目とゝ〻ぬ弓ありされゞ上へ諸侯大
臣の義兼と引結下ゝ町人百姓の役兼と賣買
もちゐ其利益あるとありとて大坂舎の地ゟ
い色と米一とを今兼お傷の繁昌をいふもさ

らく〻ぐ迚されを天下を平ゝ御代ゝて職
人いさゝ〻〻の細工とりゝけ高人い種〻の
仕出とけゞめて賣買あ商りゝ工業ゝて今い
かねをゝけ比ゝゟ紀世をゝりぬ方ゟ多く
の所人兼お傷ゟかゝりて利徳とゝる人もあ
り換ともるものもゝりゝ換と法とたゞまけう
らとかゝをゝりゝ換もるかゝゟ思ひへ
るゞく法ゝるゝにおりひいを多〻ゝ迚

永縁利とるおとなりそのゐひいきはしなよ
ていかなりの利徳を拾んの自由い氏商の
有がゝれとてろよあゝばやまれ共人ゐい時
のいゝといゝざるとなり時のいゝるゐ
小ちよのをんがくきが大切とをげがゝ
時のいゝざるゐ大多くみにかゝきをおそ
んぢるおとなをゝ氏徳よくゝ名べゝ何
のゐゐもゝとなりそくと行要なるべゝ

立身出世のすゝ

一人ハ法ぬゐ立身出世をんかくべゝかゝるも
拾奥安乎にんがくべゝばつ絲ゐ其んがけ
さくもれべいづきのゐゐも掛紙いあるをゐ
りんがけうをくてを学宮ゐもせよ武乃ゐも
せよ拾藝又を高麦ゐもせよ名をなぢる家い
かゐいざるあり今の世ゐよきをゐ名をなぐ
る人のまきあるを其ゐがけのうをきゆくな

りよう あき 技藝や 博奕 まい 名人のでくるい
甚 ろ ろが 夢のはよき 有 あり 金張 とりふり
んんげ ある 此 業 高 ふ 志 く 抱 い あ 天命の
時 と 技 る 人 あ ど の ふ 乃 の 高 ふ 学 と れ る
い 技 き ま り 一 た れ る 星 の あ き あ ひ 一 技
ふ 特 技 が 冥 を ら と ら ざ る い ふ む 位
し く ま れ ど と て 時 い ま ざ る 人 の た ら ね
と の で む い 病 人 の 善 ば て あ る べ し 卯 と そ

ら て 人 の 奉 ば て ま り 此 時 い 者 ふ 利 と 有 べ し
と 思 ふ べ ら ば 技 と 中 ね 技 ふ と ふ ば く で
い ら ふ も 神 仏 と も 伝 ば 人 ふ も 義 理 と か ば ど
見 て と ま め ふ お 傷 の 行 為 と 者 人 言 実 ふ ふ と
か ら ま で 天 の 理 理 ふ 可 ひ く い ら ふ 為 命 あ れ
べ ら く お 利 と 技 め と い ふ て ま ら あ き し す の あ り
か ら ら ふ て 日 と 時 め ど 年 ふ 去 友 秋 そ の お
ら ど く 人 ふ も 盛 衰 の 時 宜 あ り て 天 運 術 限 を

るとあり大利居るる時あること相生時者
とり考ふべしかるば時者とり考ひて
ち立身ちありがきものあり多くの人その
時者の多く時ハ沈淪して自明ちるものと
ありて立身出世ととり考ふ仕合の強き時者
何とぞ考へるよきものこかるときふかく
と陽妄相無ふのこと多くの間をとり
郡をゆえまこと天運絶滅して絶ものこの

時ふめぐりあふあり いかある運よき人も
生きのきることいふとをけるあり此きと
と取うしおいされば其分相応の福徳いる
ものとあり

運強き人も運たよくある事

運のよき人いつあも運つよき人ふより
ておとなるべしものあいあやうしい
ふものとあり為人をすて物と深るに不

海の氣ふるきび立てしくあるがごとくに
さの中のよりだいおのづからあがしよくお
ふぐきあとあり

天の時地の利とはなりて人の和成

ある人と

一夏のいとく天のときい地の利ふるに地
の利い人の和ま志ぐとあり天の時い人く
の運をひくべきのとをいふ夏秋きき秋

このるも是ら天の時ありたとへば天の時
とはられば地の利あけきば人も立身の
功とはなるく業も生長して義を成ぐく
しるるきば天のとを成けるよりる地の利
とある成かをめとたたいていきば国田
畑の小里ま市ひ志て高をるるりい天の
とを いりて小利とはるとつくども其大功
いとげがたいいるゆる三ケ丈大勢かたぎ

とかゝる大商人の天運に乗ずるときはいかゝ
ま地天下に新たなる大福人となるいあき地
の利といふものありされば立身とのぞむる
のハ其家業をえらぶべきものありそのあき
なひのよしあしによりて其立身に不同ある
おとなり業のをびあも矣人函人よりも不
仁あるべんやとかり矣をはくるものを比矣人
城射をさんとてかゝるときはくるいとあ

らゆる者そ人の射ゝるる矢をとゝのまもどと
気をとゝもるあり其業ともる所を同じくれど
る人を教をとかをくるとの差別あり其ゝ
家業ハよくくえらばざきものなりある人
疑ゞていまくおうきび相場商ハあしき業也
いうんとなれど米と買函人ハ主立腹の富か
らんをといのり賣函人ハ其立腹のさゞらん
をとのぞむ賣人ハ天下を善あ買人ハ天理

ふそひく元ものの多りれどもあるひ為をきい理
は當然あり若年あるべみ數下直あり安と
高くせんと形ふを西年と形ふの名理あり又
深ととり田を耕を人とのぞきて商人職人
藝者のさびいを系城買て食ふものあり
買て食ふものたきをその直のたりきとりろ
おだん是又多人とるるのををみあ
らぞや可をくていをく一理いすつとも有

る所をて是は理窟といふものあり相場の直
時い人ふありて高下い人力のあるべとこ
ろふあるべいをゆるる天ものいをばひをとり
りていりをりもるといふものありそれ相場い
人の和をりつて生るる和の直段あり若年あれ
ば米穀やをきとりふを唯一品の理也天地の
名ふい理をけふをて妙とりふものありかる
ゆへふ若年ふも米のをきあとりり西年之

も茶のゆきとあり天のうちを男をつよく
女をやうやうあるべきふ男うるわやうやうう
るあり女うるわつきあり是い天地の霊気と
いふものあり巻年に茶たうく西年ふ茶やを
きい天の霊気ふあるぞひとの和といふもの
なりかを王侯よりかを下ハ百姓ハ茶と義
まはむ時ハ市ふ茶もくあく教舎の地ハ茶の
虫頂たうきありきれども人のかハ義ふ茶の

はやりしを式初る時を市ハいきくあくても
又虫頂たううるべ只ハれ人の和をうるとい
ふものをまを天の命をあるあて時運のあう
ちしるをうあり買金をる人いうふたく
をはうふるを天命をもどくをいかあいぞま
しを家一ふの利ふを祢ぐ人べうを天下の西
年ふあんをを祇年ふ人あんやたをへはり
をてもかを不仁ある人の大義をふ就をる

といあきなとあり立身出世と称ふ人いよ〳〵
此乃理を考へて天理とあり〳〵べし天理ハそ
むきていにしへの人のさとりあとありかゝしかる
ゆへハ買金して芸術を学んと称りんも
のゝ先古の天のときとひとの和とにあゝ俗
とたくべしゆめ〳〵天乃の不順と称ひ大風
大風とあてとさべうべし二百十日ハいかゝ
らば大風ありとて徒人あまと用あてけり芸

術ハ買金さる人あれ〳〵いさゆる笑を
やらかしといふ扨て一花ハお場あゞるこ
とあるとも結句二百十日ハ大風ふいて去
まへば米麦のやうハさゞらあとあ所こを
いあてとさるる風のさゝ田もそ去あるべ
まゝ遠国ハいその風のあゝ如和もありて
人のさるるやうあもあゝぬものあり〳〵べて
天乃いさりかゝし所教いつねハあまるも

のあきば天文暦数みも在俗の奇技ありて万
年のをきふおよびしーがくもとありゆゑふ
暦法も学くふあくまりて行つくとあり
まして風雨の変い形文きりがくきもとふ
りたかくおのひくくーひだくんば
天の写加比率
一茶々入船おりあきくはふも お場のうきもも
おりて西茶漢ふくまるときふも 直路のさろ

るもとあり只一句のみわくーまて茶のあり
なーとさくむくいもあやまりあり竹とくが大
板ふ百万軒の家あり氏家くふ茶をもとむる
の急あきいりふ漢ふ茶多きくて竹きりわ
はだりんせ又百万軒の家ふもとむるの急ふ
くば漢ふ茶あきくて竹くもとおもーだりん
せ上ふいるゆる人の和といふものありこの
わとくかんぐふだしー冨美とけんと思ふ若

いとかくあるべきことなりけり人あり名ふ冨美と好
んと彩ふこころさえ法よりれど命の酒妻好
奥おもんうつくしび好色情愛おもきどさされ
ぞしてなをおとするあと者愛ふあるぞと云
とおしこれをえ大半とあるろふかくれど天
の理ふ叶ひておのづから立身をることう
たがひあしされど利欲と身一ふきれいとて
かりみも恐るふかくりて利を好んとおも

ふべくらばあらしい天の乃ふたくふおあれ
ば長久の徳ふあらば天地日月のめぐをいわ
城者ひそぐて長久あるえむるものあるふ
其中ふそぐろひとの悪事とあをを天地日月
にそむくあり世の中の悪事といふ悪事ふ和
とそぐて者ふの乃理いおえてひとものあと
換ど破るあとのをば世はうる足天地い和とて
だうるる乃悪あり其中へ換おひ中ぐるものい

れどもくたらつべしやけうへべみは中は火
といりんともるおとく山の上ハ魚かふどく
まて何とて仕あれ共もるあとのあるべきやと
くひとりいてを他日月みさうふてい一日所
詞も立がたく此法とよくおもひあるべし
人を西東と分一ちに伝のあ弘あうんべ人
へたつまじきあり荘子の寓云ハさ人盗人の
ためあるみ事ありとつてりばみる盗人あるを

とて親もあるもみあるもみ妻もみ兄弟もみあるの是ハ
ひとのかたをと切てひのをもるあるも釈を宝
ひ妻とたるもれをるる城不法がるハ人情あり此
人情といふものハ天地の気よりうけ来る所
まて強盗をる根性ハ私のつくり心偏也者
のをちありて盗人の釈ありて野山みまて
をちといふ法もかく盗人あるをばとて妻
まてもくをもまぢ家一分くの人情ありて

み偏みなのかるるあとい[illegible]山偏山者と
[illegible]をべめを人るめもこせをあるあんぬ
を人のめもこするもえ氏み偏六者と欠おと
とかあしを一番あのひけやまりて氏勉業と
あをもとありまして人の人あるゆへんい氏
まもとの一字にものるあり町人い賣買して
利を好るものあをべとてあしきものと言く
よき物のけるひにそうべあしきあふい其

あるの直段よき代物ないそれおを不言下の
直段をたてる其物のでるそこをとをねき
いめて其あるひのやもきけふて買求めを物
のをくあきこをにおしてその直段のるき
ところをて賣られ者の乃ありひとをかをめ
て利をとるをてあるをを考べき自然の利あり
天下のあふ万物を用さを財宝を敵をさを
ろための交易あり氏をろをとくかんぐ

知る人い賣買の乃ふ天地の運気とうけて人
の口とかりて天ものいきもるおのおの傷お
りきれぐ此相傷に立人指一つ歩て賣買の徒
接とあ〜ふ石万石万〜石の高ひふひとつの
変理あく百筭賣の利とは百筭賣の換とまる
も此ゆびさしひとつが徒接ていふいろ
ろ多き世の中あきども此換傷ふ遠礼あき
へ天理より為まりかる伝の乃といふもの

きりかゝ系西直西稼の高ふ能気地乃とらい
ざて〜世立身のあるべきものうよく和も
ひきりてはもるひとも利益とるとも
さびあ〜いうんとあきが天地と西直のい
きものあり此西直と中ふあめうべいうふ
もちゆう久あるべきものあり西直西稼して
行てもきめても賣買のもに力をはりたくぐ
行あ紀あひりても福徒あるとうさ屋う

国立公文書館
National Archives of Japan

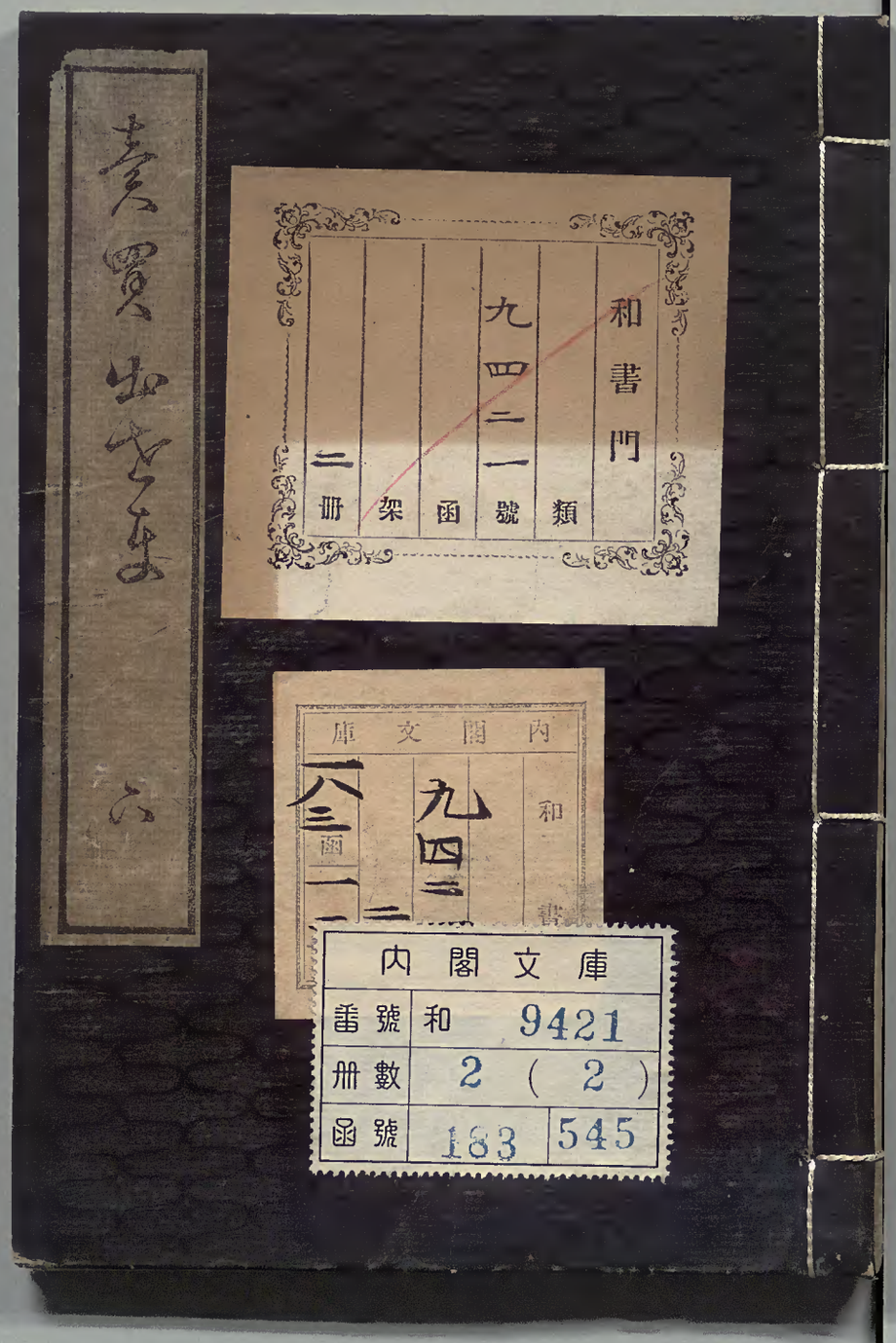
米上

らぢ

穀賣買出安車上ゟ之預

冥十二

国立公文書館
National Archives of Japan



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

賣買出世車下巻

辻占の事

一辻占とは
きくといふあと日事にて神代より
きこえるところありされども神代の法は今
て中古よりの法今は伝まり茂系清浦
釣船の袋茅に其ことのせり
ふけとさやゆへふけの神はものと
乃ゆく人よりまきふせよ

第塚集の奇人の時代まんなりあるさと
ありいふも世上がふいつて人もれども地
下の人ら生法をくわしくさぐ居ゆく人
のことばと聞て考てるとさぐり究へてひぢ
とあるべ多くさ考しあり是さるつち聖人
の易と作り玉ひしに乃ちるふとありて古
西悔吾城知るの宝さまりあり その つをと去
らざるひとりんふあるあとありとく

わざりつふ人もなどもなふさあらば
天ふ口ふ人城りつていまし むるといふお
とあり上ふいふおとく天地の氣ふうあふご
とく其本仁城あるうあして家業とはとむ
ふ人古の辻占とりつて吉西とりとむをい
天られふ人はとかりてつげのふり上ふの
ちるふの家と三百へてむうふりうる
人のうれしのことばとりて吉西と占ふに其

あるゝ　あるとゝろゆめ〳〵うとゞ屋ゝ
ぜ

人ハ貧福あるゝ

一仕合のよき人ハ協と協合せゝ買ばあゞり賣
ばさゞりていつゝ利を得る人ハ又
貧福ある人ハ買ばさゞりて賣ばゞりいつ
も換をもる人ハさゝばよの福人の賣日ハ此
貧福人ハきゝめて貧ハ福人の

貧時ハ貧福人ハ極めて賣ハ福人と
同時ハ同盟限りて貧ゝ体某てあゝとハ利
とゝりあゝさハ換をもるとあり是吉凶ハ
日ゝよゝば人ハよるとゝろあり此ゝとゝろと
よく考へて天理をゝ体をぜあ紅ひの乃
ハゝろハうくとめてありひ入ゝ体相協ハ
その高下とハ何や体ゝぜ家敵とゝるハ
ハ天理をゝ体をゝとあるとゝろあるべおの是

ゞ人類の性を猶ふかくひきれてそのありひへうゝ者ちがふものなりあるいはおとく仕合よりて人と同じやうに愛して相応に業をすてきたるよい結をけるあるよい換まること

といはゞ一人の妻おひきまいきれて君へぬ換とまるあとなりいはゞ君ぐくまちいはゞきれゞ勿ち利を沒るあとまや油つく仕換じまくへ足りて君まへべきとろとひき君ろいて大換をまること

あ古のゝむより君ひいはの節をならぬ君わとまるべし

和傷の為下ば君ひ定むる事

一此業へ来ゝ為きゝ中ゝと工夫をなる是至極の大半なりいゝもあるべきとおもひきゞむるゝれへかりみも責和傷と君をべゝ後又はゞるべしと思ひきゞめべゝ

ふも實に傷ふかるべうぞそのおもひへ
のおとくやもとに而実ならぬ而と爲へし人お
とふわうおもひ入ふ理窟と佛者いろくと
天災地変をはうる人ばをども中く天地ハひ
ろきもの多く人力のたらる而ふあらぬ又お
傷ハ人の和にて万人の乱の結ちもむる而ふ
きべ一人二人乃至ふ人十人の力にてきたら
ぬ事ふあらぬ上ふいふおとく天理ふう

あふ人ハ自然とそのありひいきとくあふも
のなり人の利に才覚のあるぶ所ふあらぬ而
也此一ぶれば生和傷のいきとなてあるハ
あらるべしとあり人べ所ばり是ハ所ばるべ
しとふ人べきちさるかくのおとく
ありひべきの所ハ是定分天理ふ叶ひてそ
のみふとろれならうあり無の人のいふ
理窟せうもハ藤のやうふも立ぬるあり為

ひがぶ傷をへひきおしてて天理といひまぐるといふそのありさまを一日の中ふ其お傷四五七八分と引てきて四五寸三寸より足又七八分とあがりて二寸にさがるゝようふ四五度も堪果ありてかゝひお傷ある時強氣の人へ皆いふ四五二分と四五度も引てそれてもそれより寸さへいゆるぞとゝく五五のかさときるべしー五五とめきさいみ五

四五度もゆ人屋ーといふ又強氣の人いさあいふ五五の傷へ四五度も中りて足れどもてかく五五ゝてきゆふあり四五の内へへべきお傷ありといふ此不當双方ふ乃程のあるさふく傷頁いつけがゝ足さあり天理い明ふるものふて人さの足ろにいひ右めらさ和ふあらば強いむやくあるさ右ゝべし

美ゝて右四と知る幸

一夢とすつて吉凶とかんがへあるとあり吉夢
いまれ吉凶夢いまれ凶夢倫のゆゑありそれ人
のゆめといふそのいへんのまとつのつそ
とあらすり雲ふかけすし去ふと言るとく
のあとうさもかき夢と乃るもうるあ是乎
見ふあ是来る妄相ようりうりまうるとこ
ろありたうへ平生人ふゆびをけうをざる
わどふ乎と拙おやせ人間まつりにも犯乃

とせぐふあどの人もとふおようをへ生るる
とふろの夢の中ふかうひへ人ふあろしある
ひを始とそふあふ夢あどそて家とふとうる
しむうふとありちをその人の平生ふへさや
うまるなやまちあどをる人ふあるあらば空通
ふうろとうるしむうあとをうて夢あき人ふ
きども ゆめうをワゲ身と家とひきまりをを
もまりがくくふちぬひがとふんとうるしむ

ふちりさまれぞ蛍の分拾のよきいを郎のと
しあくてまるあくて秋は美のそうあきいを
の年生ふあを来りくふの妄想の陸くろい
たくいてきくるとあろをりを歌をとふ
ゆびざくふあとの侍人もくふ花とりぎり男
ふつやとはくをば大善人ともえちぐへらる
ろを皆いつをりかざくをそうをりをもあき
て日用をはとむるふ氏邪智をいつりか

ざをどもねての美ふいその郎と家とひきま
いをあとをりぐくとでもをい美をえてさ
してもあきくふをひやを古を地ふ一日
どろの妄想をたをいふをども年ふといふ
りのハをとりあきくふて古をとつをを
ぞ五鬼中ををりて八神しづりあをバ年美へ
くるりりぐをくへ中ぐをして氏美とふる志
くをべゆめを西歯のあくりるふ和あをべた

きゝ成りつて吉凶と占ふ人雖有之てハ天理
かりそめ人間のうらぎ人ハ老僧ハ
どうもえゝ義と占ひ吉凶とかりそめ之義
又周の文王ハ七日室と始ひしも義の告ハ
ハそのかゝ聖人喚人のゆゑよりておとと
決せゝまゝ有と言せ人いとまりそ
おとゝかりいつゝの妻のひまさるがおくし
てせいどんゆゑあゝとつゝ古僧をひきて

てゆゑとはゝおきとまるいかへつゝあろ
ゝあるとゝかり出強老僧義の出ふゆゑの
ととれせるとりつてあるべし義ふまりて
吉凶と考へ利徳とはゝをおくありとかの
老人坊僧ありとくゝと法くまゝ
一代の中貧福とゝ人ぐの事
一始あゝぞといふとゝかゝよく縁あるものをく
あゝと聖人もれとゝ人ぐとのあゝ

はじめ一死まかぐ去くとりかりてもあれくるとなとげど其あるりとよくまるもの中一人の貧福とるもなるりるるんば人ありて幼およりまづしきいるあるとして老のれわおるりてるちまちるく法とれて俗ふいふ死びうりとやをび人るか仕合よきひとなりとるるやをてせ其幼ゆより貧くかんあんしるるあとといるば又ををじやうい富貴ふる人あをども年よりをまづしくあり困窮去て死まれど人あをと貧人といやしむ去の貧人いむををてよりあのるる栄雅活計まを牧年とるるし只死きいい六十日ゆなりいどだうの貧まて一代貧乏のかぶよりきれの福人いむををおつるると貧あおるるち一生栄雅栄ゆるるるをど死めるあの六十日に富貴富去ていのちあでるふあるをべ一代有徳人の

操をあらぬ人をたゞ死ぎい一時のせんさく
ありかのびんぎうの人かぼの男もつうきをに
身体をろしきせろふ死たらゞ一生福人のろ
ぶもうしあふ時ゞあをいをがいきゞかをつ
て不仕合をあり又かのうく人もし
わるに時ぶんの貧乏をはてたらゞいらば
うりの不仕合をを命ゞをあるをとをり
ををなうををべ人いらゞをとて をむべ

きをと身一をりつに時分いうふ富貴あを
べをて足をとたのをて奢るをばうをば又貧あを
ゞをををうふしむべうをば危角家業ゞ大半ふ
かけて天者をたの志むべし死を金ふををと
ゞ成ををたらゞ一生の切い立といふものあ
りあをふ此涙のあにをいを一を糸子里あを
べきのふまでを寿命をををぎうぬたる人も
一朝ふ利ををてを万貧用りをとゞうをを

なりぶんたのちゝあるあるべし

人の身上ふうきちゞみ

一ひとの身れ上ふのがり坂ぐり坂といふ

とありゝゝ人ぶ百姓目もちとよぶゝ人の

あひはしくはゝうきれがあのづと一門

養屋おくなりて奈とおりて ねどおぐりお

来て身代ばとろるとりぬ廿ゝじめの

百姓目ぶ暗くなりて今い断十四文二十四文

げりれ身上となきべ廿ハいふふおよむ

を学るうゝもさてもくあの人ハきついお

ゝろへゝゝや身代ハたるまぢきと体裁も廿

人や妻る養屋ハそも乞食となるやうふわも

ひてうもひうるしむちとうぶりあし又その

ありゝちのまづしき人ぶ暗く仕合よくあり

て五メ文十メ文の小銀ぶでゝるとを仏ゝる

りゝゝもいひまやしてよき仕合ありとゝう

やめを生涯も大福徳をかくるゆうふれもひて
て苦あるそのびんがうみんとけあるどるを
とありぬ代仕合人とかくの不仕合人と申
俳くべきれべ不仕合人のとあろふいまぐ
ちをなの銀ありその上ふ糸紡乃を何ゆとら
かぬちどありて人まどうい万ぶつと
まをりをの仕合人のうちふい銀をゆうく
十貫文糸紡乃をとて志うくとまるものも

なく人づきあひにをいつとても写ふありぬ
がちあり何とてこをを仕合人といひうを成
不仕合人とまるやこを見とかくざるとの遠
あり聖人もかるをとと成ぬとれくぬひしも
なあるとをありかの不仕合人が見とを成あるを
して日をくるせを何とまてもあるふあき
をるをあくいつもかぐらのねざくをり
てをるいくふ変ふをありぬみこの

仕合人ハ我身分不菅のびんぼうと定規と
なるをとるを我分不ちたるものと成者を
りきをゆへ不家ちくとのありてそんじよ
うきれぎきもの銀ても商人の名を名乗
りされぎ此上り坂ぐりさうといふところ
おまかおとぢなぎいろやうふぐをうう
なる身代ともりちゆ成きべしあくりさ
ゆ人を菅の高美と定規ふして今の貧とさ

ばりうゆへ扨子定規といふものみく高の
曲尺ハけづるうりさくを踏ドて上り
坂ちうしちうべ不仕合人のきく二十貫目の
銀あるをきき仕合人の十貫目の上ちうばや
古沼おきのふの貧ハ来ぐ全く貧ちうば貧ハ
なるハ玉つてけづめて是貧といつり貧高と
かハ限りきりの高ぐんハ意して丈
ううべ貧高へぐて高して貧高ぐて生き境界

にいくさをまこと　つち　たから　とくの　ちくひと
り

軍　ことに　人も　勇めて　おそれ　福と　なるなり

一　福禍　天に　あり　死生　命に　あり　といふも　聖人ひ
とに　なることを　教へしめん　ための　金言　なり　富
貴　天に　ありて　日択　福　なることを　人に　福　なる　の
きこゝろ　べき　いとなれ　ども　死生　命に　ありて　み
ぐりに　海河に　身を　ゆだね　天命を　まつ

まて　天死　きべき　ことの　ありさまに　れば　大富　に　天に　あ
り　に　富　に　人に　あり　と　いふ　ことの　ありて　大切　と　天に　あ
ら　わ　し　富　貴　海　と　たとへ　ぶ　ぎの　事　に　天命　あ　き
べ　人力　の　及ぶ　わ　に　あ　ば　所　人　ぶ　んざ　い　の　富
貴　と　いふ　ことは　漢　紗　の　こと　に　て　さ　の　こと　天命　を
倫　ぎる　ことの　後　ち　ある　こと　に　い　あ　ぎ　何　に　て
も　其　商　の　乃　に　工　失　と　ち　こ　し　結　力　を　い　ぐ　し　に
べ　その　身　分　れ　百　の　福　結　と　ば　人　き　こと　あ　り　貴　定

人の貧乏あるゝも其天より何とする所あるゝ
ぞ皆〻づゝ分とひきわ来るところあるゝ
しまぞわかくの貧乏人とたのしてこゝよその
人おもきつきかゝるあぢあるゝ又へあぢとゝ
ゆゞん〻ぐちで何きかいわ面あるゝあるゝ名を
つ様わあぐりのんありてはいやをゝゝろお
あきゝあるひいあゝろうぎゝゝて人わ是
相なく和融せぬわあるゝのみ人わ面ゝぐるか

ゝろありて人づきあひの何しきゝ多くへこ
ゝゝのきぞありてあきをひわ不矣利あるゆ
へ利益と好ぬをあり口ゝと口ゞ分のあしき
とゝろをゝりて人交りゝく面わ迷惑なくべ
福悟をえんをゝゝがひあしその面とあゝひ
やゝぞして富貴至天あど学者らしくにき
て家業ともはとめぞけらゝんぶんわゝゝを
いゝゝゞゝ碧をまぬくゝふものありその

蔵屋敷と云ハ天下諸世のゝめハ切名とを
うる人の身のうへのおとまて賣買交易ハ利
とはうる町人あどのかハ面ぜゝ町人あどの
大蔵屋と名付くるハ大名家あどのうへよ
りうきべ何方どの半ハあゝぼ町人のみ始と
いふをたゞ多船帳面げうりまて弾の金銀と
りつといふかのまへあゝぞ只此多船帳面第
のまとあるをさのゝ賢大あるおゝハあゝぼ

よくユ出してみるゞ仮ー大名家の蔵と云ハ
金銀を府庫ハ倉と書要とまれども町人百
姓あどハいやしきものあをバたゝへあると
てゝぐりみつをとくゝもあゝぞあゞひハ人
と与をけあひて学ハ通用をやをもをたた
かゝとをかるゞゆへゝをふをきバをふる
ハをゝゞひて人ハかゝを利益をとるゝ又ハ
家屋敷ハ田地をと賞てその家侠をとりあ

るひゝ依怙とするゝ是ゝゝ百姓町人の分上
なりゝき金銀田地等いみな人君の位しるふ
とゝろゝて生下おもむく人民いちをとかをよ
ゝうけてきのふとゝいふ物みて実ゝ金銀田畑
はゝとあるおとゝもあゝいぎ出うをば富貴
五天といふをワきゝ分上ふあゝぬとを知る
べしはゝゝゝとゝゝはゝゝて商賣ゝちうゝ
とゝきゝゝべきあゝとのきゝとゝいふおとゝ

あゝゞはゝゝゞ人の家よはかりゝゝ小者ゞ
紙を大半おうけてきゝの位とおおゝゝ武
ばゝをゝあゝれまぬ主人やあゝべきゝ主人
ゝゝあゝれををかけば小者身の不物をある
をやあゝべき町人百姓もまゞそのおとゝくを
りかみゝりあゞけふゝゝの田地と耕作
しゝみゝりはゞゝゝふ和の金銀と通用し
てその利法とはゝゝるゝ正理とゝゝて精いゞ

さばを買加おうふひて福利を天より あたえ
たまふるありさまとさ〻米商い他の賣買のお
と〻賣人買人をまつて多分なるものゆいお
らをれ情の中にて何方なと賣買なるとそを
るひ図のつるてふものあるものとさへ
あらうたゝを利益を切あと用あにあり此出
をよく〻よみて考へあるべし
要義の半

一たゝえざんを垂て玄牝をもつて吉凶を占ふ
おとりうちの書籍をみへるあとあり我
朝にて上代賀素の占ひの遂法あるべし天一
を生じ地二を生ずの理あきバ陰陽奇偶の
道おうふひて周易の深き理もあきらかおける
てあるべしされどものを人法を作らへら
きう学ふかちゆるとあるとはまあるかうり
てまありぐ妙理ありるとかんじいまあるそ

はせを

まづうらあふ人の年の长まをとりさて占ふ
日の长まをとりまたその尊の面わ潔る而の
長まをとりて足と三つ合せて其吉凶を定む
るあり たゝへば十一巣の人十あるわうらあ
ふちと何をべ年いまあり日ろ长あり其尊わ
うるとあろまあをべ二まを一長のうらかとあ
り又十八巣の人生日の占ひわまの数と好る

こを年い长あり日も长あり尊の面わ好と
陰和ちまありあをと二長一まの占といふ又
長の年ハ人长の月ふ长の筭と好るとこ长
ハ占ひとこみまの筭の人まの日ふまハ筭と
えるると三まの占といふ比四月孫とりて
占ふ四月孫の吉凶をあふ考へとり
尊の面ふて长まの数とをとるるあろ先ハと长
づめ目とふさぎて女のそのゆびきりてれ

たゝみの寸法とさゞめおきて板間と間きそのたゝみの目と二つばゝかぞへあり一つとまゝ二つとなる倍ふ古よりまるゝところれぞゝ〻ろにゝがひとあをべゝゝばをべて指をゝゝあふとあるとかつて宋一とは聖人のつくりあふ周易も正直貴業ゝゝて以て天乃ふ昨ふと仟要ゝゝあふとろあり我年の出宋とゝゝその日の出宋をけゝゝり又其夢の出宋とゝゝり此三つをゝりて吉凶とさゞむる為あり生天地人の三才ふかゝとる所あり

三長の占

天気い面　浮物い有　失物い色
人い来　お傷下直　嫁とり吉
婚姻吉　方角い西　猫屋内の気
病気　長引く　病気い立ゝ　若い善い善

三年の占

天気ハ半
病人ハ未
もとより吉
病気かろし

二年一出の占

天気ハ風
病人ハ未

得物ハ有
相場ハ高
方角ハ南
婚姻吉

失物ハ不失
嫁とり悪
病人ハ病
若悪ハ吉

失物ハ出
あらとり吉

方角ハひがし
婚姻

傷負ハ負
若悪ハ色

病ハ難義

二年一出の占

天気不吉
病人ハ悪
方角ハ北
婚姻ハ

得物ハ有
相場ハ
傷負ハ
若悪ハ雲

失物出ずし
あらとり色
病ハ死病

うりゝ　ゆ　せ　ゞ　ゞ　けのまた
賣買出車ト定ル

延享五年辰五月原刻
明治六年第五月補刻

大阪本町通四町目
中邨彌七

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan